

会 議 録

会議の名称	第2回白岡市地域公共交通市民検討会議
開催日	平成24年10月12日（金）
開催時間	午後4時～5時45分
開催場所	白岡市役所庁舎4階会議室403
会長の氏名	佐々木操
出席者（出席委員）の氏名・出席者数	嶋田功次委員、磯部春代委員、堀富夫委員、渡邊剛委員、佐々木操委員、長谷川博委員、村尾齋一郎委員、市村春樹委員、吉川すみ子委員、角田由美子委員、森木清次委員、新井文雄委員、明野真久委員、細井将司委員、尾崎晴男委員
欠席者（欠席委員）の氏名・欠席者数	なし
説明員の職・氏名	企画調整課齋藤課長補佐 企画調整課内田主査
事務局職員の職・氏名	総合政策部田辺部長、企画調整課野口課長、齋藤課長補佐、内田主査
その他会議出席者の職・氏名	秋葉清一郎副市長
会議次第	1 開会 2 挨拶 3 会議事項 (1) 施策対象者の検討について (2) 先進自治体等の事例の研究・検討について (3) その他 4 閉会
配布資料	会議次第 資料1 白岡市の公共交通を取り巻く状況 資料2 コミュニティバスとは・・・ デマンド交通とは・・・ コミュニティバスとデマンド交通の違い 資料3 第1回会議 資料6 III他市町事例の事業概要

資料 4	平成 1 9 年時点での全国のデマンド交通事例
資料 5	N P O 法人が運行主体となっている事例
資料 6	高齢者へのタクシー券の交付事例

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
田辺総合政策部長	<p>1 開会</p> <p>田辺総合政策部長の司会進行により会議が開会した。</p>
佐々木会長	<p>2 挨拶</p> <p>佐々木会長から挨拶が行われた。</p>
秋葉副市長	<p>秋葉副市長から挨拶が行われた。</p>
事務局	<p>3 会議事項</p> <p>(1) 施策対象者の検討について</p> <p>事務局から資料の確認、資料1についての説明が行われた。</p>
佐々木会長	<p>ただ今の事務局の説明について、意見をいただく前に、A委員より専門的見地から、補足又は解説等お願いしたい。</p>
A委員	<p>民間会社が公共交通を運行させるのが難しい地域を考えることは、どこの地域でも課題になっている。対象者は市民全体が望ましいが、それは既に平成18年までに実施していて、うまくいかなかった経緯がある。今回その経験を基に、新たな公共交通を考える上で、ある程度対象を絞ることも考えられる。</p> <p>事務局から説明があったが、(1)は既に経験済みであり、(2)も経験済みかもしれない。今回アンケートを実施して、公共交通を必要としている人は誰なのか、自分で何とかできる人や近くに送迎を頼める人がいる方以外の足を確保したい、というのが様々な自治体の考え方となっている。公共交通の運行の仕方には様々な方法があるため、地域の実情に応じた方法を検討する必要があると考える。</p>

佐々木会長	<p>事務局の説明に対して、A委員から補足をいただいた。それも踏まえて、事務局の説明について、何か意見等はあるか。</p>
B委員	<p>議論の前提条件として、5つの例の説明を受けた。</p> <p>今回は対象者を検討して、運行形態は次回会議となっているが、実際には運行形態も少し含まれている。運行形態と対象者はリンクしていて、やり方によって変わるため、最初に対象者だけを議論して絞るのは、間違った方向に進む可能性があるため適切でないと考える。</p> <p>また、資料1の説明で、例えば(1)は「大規模な財政負担が必要となる」とあるが、誰が負担をするのか。企業の社会貢献やNPOで運行している例もあるため、その場合は財政負担をほとんどせずに運行しているところもある。</p> <p>これから進める議論は、運行形態の話も入ってきていることからマッチさせて考えた方がより効果的かと思う。</p>
田辺総合政策部長	<p>御指摘のとおり、議論の仕方が非常に難しい。議論を深めていくためにオンデマンドが良いとか、循環バスが良いとかあると思うが、共通の土台に立たないと議論が進んでいかないと考えた。</p> <p>最も根本的なところとして、全員を対象とした公共交通を作るという方針がよいのか、それとも困っている人にサービスが届くような、目的を限定して行った方がよいのか、という議論をまずしていただいて、その上でどういうシステムで運行していくのが良いのか、という議論の方が着地点を見つけやすいと思い、このような方法としている。行政としてターゲットをどこにするべきかという観点から議論を進めることを提案させていただいた。</p>
B委員	<p>先ほど説明したように、財政負担も運行主体によって、やり方を工夫することで負担を出さずに運行することも可能である。</p>

田辺総合政策部長	<p>それは今後議論することで、あくまでも市内全体を対象にすべき、となった場合に、いかにお金の掛からないシステムを作るかという議論が今後考えられる。</p> <p>事務局内では、市内全域を対象として、NPOが運営するという形はなかなか現実的ではないと考えている。</p>
B 委員	<p>最初から限定するのではなくて、自由な議論の中で検討することが必要だと考えている。資料はあくまでも叩き台であって、これにこだわらないで議論することが必要ではないか。</p>
田辺総合政策部長	<p>御指摘のとおりだが、議論をしやすいように対象者から議論してはどうか、という提案である。</p>
佐々木会長	<p>今回は対象者の議論ということで、その当たりを中心に御意見をいただきたい。</p>
C 委員	<p>対象者を絞るのは難しいのではないかと。まず、白岡の住みやすい地域づくり、暮らしやすいまち、ということが目標だと考えている。</p> <p>新しいことに取り組んでいく際には、何が問題かを理解することと、実情をよく知ることが必要で、その上で議論する必要があると考える。</p>
田辺総合政策部長	<p>今回の会議の議論の論点は、公共交通によって交通弱者をどう救うか、という点となっている。事業費をいくらでも出せるのなら、5分おきに市内全域にバスを走らせれば非常に便利ではあるのだが、それを実現するのは非常に難しい。</p> <p>市にとって実現可能で、継続できるシステムは何か、今回もまた赤字が続くので5年～10年で廃止とするのは望ましくない。</p> <p>行政がサービスを提供しなければいけないのは誰で、どう困っているからどういうサービスを提供するのか、という議論をしなければいけないと考えている。そのために、誰を対象にするかが根本的なことではないかということで、対象者</p>

	<p>を論点としている。</p> <p>事例を5つ出したのは、市の責任として、他市のように路線バスを市内全域に走らせるべきではないか、という意見もあるかもしれないし、余計な財政負担を今後すべきではないのではないかという意見もあるかもしれない。そういった意見をいただいて、あるべき方向性を固めていただきたい、というのが事務局の考え方である。</p> <p>議論の仕方はいろいろあると思うが、市が行う公共交通に対する意見について、対象者のことを中心に意見をいただければと考えている。</p>
B 委員	<p>事務局と食い違いがあるかもしれないが、資料1(5)について、対象としている重度の障がいをお持ちの方は、ある程度市内に分散していると考えられる。どの辺りにお住まいか、というデータを持っているか。</p>
田辺総合政策部長	<p>今すぐには出せないが、市で調べることはできる。(5)は極端に狭めた例だが、記載の人たちのみを対象で良いのであれば、例えばバスではなくて、タクシー券を配布するなどで対応することも、施策の方向性としては考えられる。</p>
B 委員	<p>障がい者の方たちは分散しているであろうし、交通不便地域も点在しているため、結局は市として、市内全域をカバーする公共交通を走らせることになると考えられる。また、民間企業とバッティングすることも考慮しなければならない。</p>
D 委員	<p>原点に立ち帰って、今回の諮問書を読み直すと、「交通弱者の方に対する公共交通施策の在り方」を考えることになっている。</p> <p>確かに市民全体を視野に入れると、通勤の人も考えるのか、ということになる。もっとシンプルに交通弱者の範囲はどこかを考えると分かりやすいのではないか。</p>

田辺総合政策部長	<p>D委員の指摘のとおり、今回はどこまでをターゲットにするのが議題であるため、(1)も(5)も市内に点在していることには変わりはない。</p> <p>我々が対応するところはどこかを定めることで、サービスの中身を、例えば重い障がいを持つ方だけを対象にするのであればバスを走らせる必要は全くなく、タクシーの補助をすれば間に合う。(1)により近い、全員がいつでも乗れる形態が一番便利ではあるが、それが不可能であるため、どこまで絞り込んでどのような便利なシステムを導入するかを検討したい。</p> <p>ただ運行させるだけでは使い勝手が悪くなってしまう可能性があるので、ターゲットを絞り込むことで、よりその人達が使いやすいものができる。そのため、まずターゲットが誰かを議論できればと思っている。</p>
佐々木会長	<p>そういった論点で、御意見をいただきたいのだが、E委員、どうか。</p>
E委員	<p>交通弱者の範囲をどう絞っていくのか、ある程度アバウトな枠で決めていくのが良いと思う。</p>
F委員	<p>まず、一番必要な人が誰かと考えたときには、交通弱者とその付き添いをする人などが対象となると思う。資料に例示されているが、まずは誰を対象とするのかを考えた方が良いと思う。</p>
B委員	<p>交通弱者はどんな人を指すのかを整理すれば、多少は対象が絞られるのではないか。</p>
佐々木会長	<p>A委員、交通弱者とはどのような人を指すものか。</p>
A委員	<p>最初に述べたが、不便を感じている人は誰なのかを考える。今出てきたのは交通弱者ということで、それがどんな人を指すのか。理想としては全ての人を対象としたいが、以前の循</p>

	<p>環バスの経験を生かしてほしいと思う。</p> <p>交通弱者というのは年齢だけでは区分できないし、身近に送迎を頼める人も含まれないと考えられる。交通弱者はどういう人なのかを考えつつ、ターゲットをどうするかを考えていただければと思う。</p>
B 委員	<p>このような対象をゆるく決めてしまうと、対象が大きくなってしまいう危険性があると思う。</p>
A 委員	<p>今日すべて決まるとは思っていないが、ある程度絞られると、こういう方々だな、というイメージができるかと期待はしている。きれいに線引きをするのは難しいと思う。</p>
G 委員	<p>彦兵衛辺りの地域では、旦那さんが亡くなって、独居になっている人がたくさんいる。子供は東京など、遠くに離れているため、買い物や通院に困っているため、そういう人も交通弱者としてほしいと思う。</p>
D 委員	<p>ここで明確に決めてしまうと大変であるため、列挙したらどうか。その中でどこまでを交通弱者と考えるのかを絞っていくと、ある程度落ち着くと思われる。</p>
田辺総合政策部長	<p>そのやり方で承知した。年齢や地域や障がいなどで区切ってよいものか、という意見があるとは思いますが、だからといって無制限にはならないので、それを議論していただいて、ある程度同じ方向性を向いていくことで、次の議論に進められると思う。</p>
佐々木会長	<p>では、交通弱者について、意見をいただきたい。</p>
H 委員	<p>一人で買い物や病院へ行けない人（銀行や郵便局なども）、免許返納者。</p>
I 委員	<p>妊婦さんや後期高齢者のくくりも考えられる。</p>

D 委員	身体障がい者を入れてほしい。
B 委員	介護認定を受けている人。
C 委員	小学生も入れてよいと思う。
H 委員	小学生の保護者や、身体障がい者と介護認定を受けている人の付き添い人は入れるべきだと考える。
C 委員	身体障がい者にも幅があるが、程度の重い人の方がよいか。
J 委員	小学生は、3年生くらいまでに区切った方が良いのではないかな。
G 委員	幼児から小学校3年生までにした方がよいと思う。
C 委員	独居老人はどこに入るのか。
G 委員	独居老人の中でも動ける範囲が違うが、一人で買い物や病院に行けない人に入ると考えられる。
C 委員	怪我をされた方はどうか。
F 委員	それも一人で買い物や病院に行けない人に入れてよいと思う。
K 委員	<p>以前蓮田市との合併会議の議長をしていたが、その中で、白岡に一番足りないのは公共交通だと提言した。それと同時に協働のまちづくりというのを提言したのだが、なんでも行政に頼ろうとしても、すべてを賄えるわけではない。</p> <p>私は、健常者でも役所や駅などの誰でも行く機会のある場所など、必要最低限の場所には行けるようにすべきだと考えている。結局蓮田市との合併は行われなかったが、蓮田市は民営のバスで対応した。我々もそれに乗れば、新たな路線</p>

	<p>ができたかもしれない。</p> <p>そのため、健常者も全く無視することはできない。それに加えて公的援助ができる人を考える。実際、白岡市内には過疎地ができてきている。健常者が自由に生活しにくいから過疎地となってしまっている。</p>
B 委員	<p>その意見は、今意見を出している交通弱者とは考え方が異なる。基本的には自立の精神の考え方として、そこは行政が切り込まない方が良く考えている。</p>
F 委員	<p>交通弱者の人たちを支援するために、例えば健常者の方には資金面で大きく負担してもらうなどの対応も考えられるのではないか。</p>
H 委員	<p>今は交通弱者について考えているので、堀委員の考え方は理解できるが、交通弱者への対応が十分できてからの議論で良いのではないか。</p>
田辺総合政策部長	<p>健常者には疑問を持たれたかと思うが、過疎地対策は一つの論点として考えられるのではないか。ぜひ議論をしていただきたいと思う。</p>
B 委員	<p>企業などが過疎地に公共交通を走らせている例もある。</p>
A 委員	<p>不便を感じている人の中には、市内中心地から離れた場所に暮らしている人も入るのではないか。</p>
L 委員	<p>彦兵衛地区は交通不便地域であるため、ここに住んだ人は車を買って生活してきたが、高齢になり免許の返納などをすると、移動に大変不便を感じるようになった。だから是非バスを通してほしいという意見が多く聞かれる。</p> <p>意見として挙げられた方たちが対象となるべきだと思う。元気であっても、移動手段がなければバスに乗って移動したいと思う。交通弱者から外れた人の扱いをどうするのか。</p>

	<p>また、前回D委員の意見にあったが、立派な計画を作っても、実際に乗る人がいなければ意味がない。元気な人でも、不自由な人でも、全員が利用できなければ平等ではないと考える。</p>
B委員	<p>免許を持っていない人も挙げてはどうか。</p>
D委員	<p>交通不便地域も入れるべきだと思う。</p>
佐々木会長	<p>様々な意見を挙げていただいたが、対象者はこの中から絞り込んでいくということでしょうか。</p>
田辺総合政策部長	<p>様々な意見をいただいたが、基本的には、交通弱者の方に真に役に立つものを、という考え方であると認識できたかと思う。いただいた御意見を整理して、次回、どのような公共交通形態が考えられるのかを御提案させていただきたいと思う。</p>
事務局	<p>(2) 先進自治体等の事例の研究・検討について 事務局から資料2, 3, 4, 5, 6についての説明が行われた。</p>
佐々木会長	<p>ただ今の事務局の説明について、意見をいただく前に、A委員より専門的見地から、補足または解説等お願いしたい。</p>
A委員	<p>必ずしもこれが先進かどうかはわからないが、公共交通をどうにかしたいと考えている自治体は多くあることが分かる。これは前半に議論いただいた交通弱者に対してどう対応しているのかを含めて見ると、次回会議の議論につながる資料だと思う。</p>
佐々木会長	<p>事務局の説明、A委員の補足を踏まえて、タクシー事業者のD委員、M委員より、何か事例等があれば紹介をお願いしたい。</p>

D 委員	<p>加須市での運行が最近始まった。加須では、路線バスとデマンドの複合パターンとなっている。以前からデマンドが運行していたため、組み合わせで運行する形態になった。久喜市では、市内の循環バスを菖蒲地区、鷺宮地区にも延長した。また幸手市では、路線バスに固定してしまっているため、利用者が減少している状況となっている。</p> <p>市内を循環してしまうと、使い勝手の面で利用しにくい実態がある。一番最近の事例では、加須市が良い先進事例ではないかと考えている。</p>
D 委員	<p>ある程度人口密度がある地域でないと、路線バスは利用が見込めない。利用者が点在している地区に関しては、固定のバス停まで歩けないため、そういった地区はデマンドで対応する組み合わせ型で運行している。</p> <p>交通不便地域でも、団地などで利用者が集中するであろう地区では路線型が考えられるが、それ以外ではデマンドを走らせるという議論が今後行われるのではないかと考えている。</p>
M 委員	<p>意見が重複するため、割愛する。</p>
佐々木会長	<p>実際の事例の紹介もあったが、ただ今の議題について、意見があればお願いしたい。</p>
A 委員	<p>先ほど先進とは言えないと言ったのは、頑張っているのだがうまくいかない例として、循環バスは利用者にとって使いづらいケースが多い。逆循環にするなどの工夫をしているようだが、どうしても距離が長くなってしまいうので、一日数本の運行になってしまう。市内を網羅しようとするバスがほとんど来ないので、不便だから利用しない、という状態になってしまう。そこで距離を短くしたり、往復型を導入したりという動きもある。</p>

G 委員	<p>彦兵衛第一・第二、岡泉、太田新井の4行政区で、今、公共交通を検討している。形態としては、朝6時から9時までは通勤・通学の人を駅へ送る。9時から16時までは交通弱者の人を対象に、通院や買い物、役所等への移動を対象にデマンド式で運行する。16時から21時まで通勤・通学の帰宅便として運行する、といった交通手段を確保できないかと検討している。個人的には、モデル地区としてやらせてもらえればと考えている。</p> <p>買い物や病院、駅、公共施設に行くのに、出たくても出られないという方がいて、意見が多いため、今年の11月から交通に関する委員会のようなものを開催している。スケジュールも計画を立てて進めていこうとしている。4月1日から30日まで、アンケートを各戸に配布して行い、自由意見にもたくさん意見をいただいた。そのアンケートを踏まえた上で先ほどの運行形態を検討した。</p>
C 委員	<p>その資金は、4行政区から出資しているのか。</p>
G 委員	<p>まだ資金の議論までいっていないが、車両の大きさ・数などを見積もって、概算は出している。</p>
C 委員	<p>また、人を乗せるには運転する人にある程度の資格が必要だと思うがどうするのか。</p>
G 委員	<p>まだそこまでの議論はしていない。どうしたら人が乗ってくれるか、負担をいくりにするか、スタート時に必要な資金などの議論をしているところである。要望は多いため、4行政区としても、なんとか実現したいと考えている。</p>
佐々木会長	<p>事例の説明をいただいたが、次回、具体的な運行形態について、議論をいただきたい。</p>
B 委員	<p>(3) その他 B委員から事例の紹介が行われた。(資料の追加配布)</p>

